



Title	近世フランス財政・金融史研究：絶対王政期の財政・金融とロー・システム
Author(s)	佐村，明知
Citation	大阪大学，1994，博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/38552
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 ＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed >大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名 佐 村 明 知

博士の専攻分野の名称 博 士 (経 済 学)

学 位 記 番 号 第 1 1 0 8 5 号

学 位 授 与 年 月 日 平 成 6 年 2 月 8 日

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第4条第2項該当

学 位 論 文 名 近世フランス財政・金融史研究

－絶対王政期の財政・金融とロー・システム－

論文審査委員 (主査)
教 授 竹岡 敬温(副査)
教 授 宮本 又郎 助教授 阿部 武司

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、近年におけるフランス革命の経済史的意義の再検討の動きを念頭におきつつ、絶対王政の象徴とされるルイ14世親政末期の財政・金融の動向と実態、ならびに、株式投機や発券銀行の設立によってしられる「ロー・システム」の展開過程(1716～20年)に対し焦点をあて、それらの実証的、かつ包括的な研究をおこなうことをとうして、絶対王政期の財政・金融システムの機能や構造の見直しを試みたものである。

本論文は、序および三部七章と結語からなり、第Ⅰ部(第1章・第2章)では、ロー・システム以前における重要かつ重大事件であるリヨン金融恐慌の展開とその背景についてとりあげ、イスパニア継承戦争を契機に一層の展開をみた流動国債(貨幣券その他)を主体とする政府金融の展開と、その財政・金融領域への影響を考察する(第1章)とともに、恐慌の直接的契機となった準公的な信用でもあったB&N手形の累増のメカニズムやリヨン金融決済市場の変容(投機市場化)と危機について探究した(第2章)。

第Ⅱ部(第3章～第5章)では、デマレ財務総監の主席財務秘書官であったJ. R. マレーの財政予算案(1710年)における収支構造や累積債務の分析をつうじ、政府金融の実態と重要性、あるいは、貨幣循環における国庫と地域金融の関係を明らかにする(第3章)とともに、デマレ総監期における財政・金融危機の実態を、実施されたさまざまな政策の実証的分析をふまえ、探究した(第4章)。また、財政・金融危機と表裏一体の関係にある公信用の累積、成長局面を、特別事業会計等の分析によって抽出し、公信用の実態と流通市場の在りよう、あるいは、当時の有力資産家の投資行動を具体的に検証した(第5章)。

第Ⅲ部(第6章・第7章)では、ロー・システムの展開過程を、ノアイユ公期(1715～18年)における初期システム期とそれ以後のいわば本格的なシステム展開期(1718～20年)に分けて、絶対王政期の財政・金融との相互関連性を考慮しながら、考察した。前者においては、マクロ的にみて、ノアイユ公の財政再建策や貨幣・金融政策が優越した影響力をもち、ロー・システムはマイナーな位置にあったことを検証した(第6章)。また、後者においては、複雑化したロー・システムの実態を、インド会社株式や王立銀行券関連の個々の政策の分析だけでなく、ジョン・ローが固執したデフレ正貨政策の入念な分析をつうじて、本格的展開から崩壊に至るロー・システムの虚構に満ちた実像

を追跡し、探究した（第7章）。

結語においては、以上の各章の分析や考察から得られた知見をもとに、絶対王政期フランス財政・金融システムが、機能的にも構造的にも相当にフレキシブルであった、との結論を導いている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、18世紀初葉フランスの財政・金融および経済のマクロ的な動向を入念に分析し、リヨン金融恐慌（1709年）前後の財政・金融の実態、あるいはロー・システム（1716-20年）について多くの重要な知見とオリジナルな結論を導き、絶対王政期のまったく新しい財政・金融史像を呈示したものであり、アンシャン・レジーム期のフランスの経済史研究の画期的な業績として、博士（経済学）の学位に十分値するものであると判定する。